

黄色い花としなやかな枝ぶりが野の趣

ヤマブキ

春の花が咲き終わるころに、濃い黄色の小花をたくさん咲かせるヤマブキ。自然な樹形を保ちやすく和風の庭などによく用いられます。のびのびと広めの場所で育てるのが理想的です。

明るい山吹色で
親しまれてきたヤマブキ

海外では『日本のバラ』とも呼ばれることがあるヤマブキ。この花色から名づけられた山吹色は、黄色というよりも黄金色という表現がぴったりです。

ヤマブキは可憐な花を觀賞するだけでなく、乾燥した葉や花弁は漢方薬として痔疾、虫刺され等に広く利用されてきました。江戸時代に、薬草に関連した多くの著書を残している富山藩主・前田利保は、著書『棟梁図説・山吹異種』（棟梁IIヤマブキの中国名）で、ヤマブキの園芸品種を10品種紹介しています。

ヤマブキは実がつく？
つかない？

古くから親しまれてきたヤマブキは、万葉集で17首ほどの歌に登場するなど、よく歌に詠まれています。

七重八重 花は咲けども 山吹の
実の一つだに なきぞ悲しき

この和歌は『後捨遣和歌集』に収録されている兼明親王の歌で、江戸城をつくった太田道灌の古事とともに知られています。これは、蓑（ミノ）を借りようと農家に立ち寄った太田道灌に、農家の娘が、家には蓑が一つもないということを、実がつかないヤマブキに例えています。

歌にも詠まれているように、ヤマブキには実がつかないと思われがちですが、実際には一重の基本種は立派に実がつきます。花はもともと葉が変化してできたもので、雄しべや雌しべが花弁に変化し、一重のものが八重になります。八重ヤマブキの場合はさらに雌しべが退化しており、実を結ぶことはありません。日本でも昔から栽培されていたヤマブキの多くが実をつけない八重咲き種であったため、ヤマブキは実をつけないといわれるようになったのです。

ヤマブキの種類と基本管理

現在残っている品種は、八重、斑入り、白花、菊咲きの4品種となります。なか

ヤマブキ基本情報

科名：バラ科ヤマブキ属
分類：落葉低木
日照条件：日なた～半日陰
自然樹形：株立ち状

作業カレンダー

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
植え付け・植え替え												
開花												
剪定・整枝												
肥料												
花芽分化												

でも菊咲きはほとんど見る機会はありません。よく栽培されているシロヤマブキはヤマブキの1種と思われがちですが、ヤマブキとは関係のない種です。近年では葉の黄色い「千葉ゴールド」、斑入り「吹雪錦」などの新品种が紹介されています。

ヤマブキの原産地は、北海道南部〜九州、中国と幅広く、日当たりの条件も日なたから半日陰と植栽環境に幅があります。湿度が高めの肥沃地を好みますが、庭木の中では栽培しやすい種の1つといえます。



かわらだ くにひこ
川原田 邦彦

茨城県牛久市で大正6年創業の園芸店を運営。学芸員。（社）日本植木協会会員。自社の園内には1800種類5000品種の植物が見学できる『カワラダボタニカルガーデン』がある。「NHK趣味の園芸」にて執筆のほか、庭木・花木に関する著書多数。

花芽

その年に伸びた枝の葉の付け根に芽がで、7月中旬～8月上旬に花芽に変わります。この時期に芽が充実していないと花芽にならないので、剪定する場合は6月中に済ませます。

病虫害防除

ほとんど必要ありません。まれにテッポウムシがつくので、枝元に木くずと穴を発見したら、木くずを除き、穴の中に殺虫剤を入れます。ただ、株立ち状の樹形で何本も茎が立つので、それほど神経質になる必要はありません。



ヤマブキは病虫害の発生が少なく、強健で比較的育てやすい。

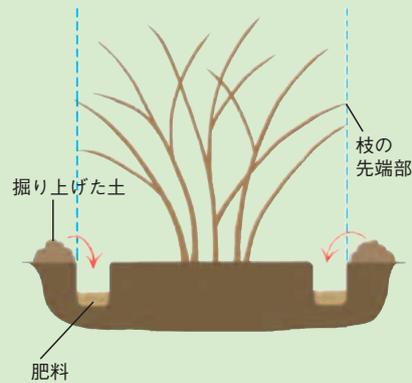
肥料・水やり

チッソ、リン酸、カリの3種混合の肥料を与えます。樹が休眠している12月下旬～2月上旬に寒肥を施し、根の活動が始まるころの生育を促します。花の終わる5月中旬～6月下旬にお礼肥えを与えます。

水やりは、適期の植え付けであれば、1週間～10日に一度、地面が乾きすぎない程度に与えます。鉢植えの場合は、株元が乾いたら十分水やりします。適期以外に植え付けた場合は、樹の様子をみて元気がないようなら適度に施します。

<寒肥の方法>

樹の周り、枝の先端部の真下の位置2カ所に、深さ10～30cmの穴を掘り、肥料を入れて土を埋め戻す。



植え付け

11月～3月の落葉期が植え付け適期です。手に入るのほとんどはポット苗で、まれに根巻き苗がある程度です。ポット苗は根鉢をひと周り崩してから、根巻き苗は大きめの穴を掘り、そのまま植えます。植え付けたら十分水やりしてください。

<ポット苗の場合>

ポットから出し、根鉢をひと周り崩してから植える。



八重咲きの八重ヤマブキ。

剪定のポイント

根元から生えてくる勢いのよい新梢に花をつけます。冬の間に、枝が込み合わないようには間引いてすっきりさせます。古枝や枯れ枝、弱い枝は付け根から刈り取り、伸びすぎた枝はほかの枝との分岐点で切ります。

花後すぐの5月ごろなら、かなり短く剪定しても次年もちゃんと花が咲きます。花後の剪定時期の限界は6月下旬で、この時期を過ぎてから剪定すると、次年の花が見られないことがあるので注意しましょう。

また、株が大きくなってくると、枝の数も増えてきます。枝が込みすぎないように、適宜枝の数を減らすとよいでしょう。

POINT 冬の整枝

枝の付け根か、枝の分岐点の上で切るのがコツ。枝の途中で切ったり、一律に刈り込んだりすると自然樹形を損なってしまったり、枝枯れしてしまうことがある。

4～5年経って株が大きくなったら、5月下旬に古い枝を10～20cmくらいの高さで刈り込み、株を若返らせる。

